

令和5年度 NO.12

学校新聞

7月臨時号

八尾市立亀井小学校
TEL072 (993) 9227



支援教育について

本校では、すべての子どもが自分の力を伸ばしていけるように、日頃より各学級・学年で、支援教育について取組みを進めています。

支援教育とは、子どもが持つ学び方の特徴をとらえ、保護者の皆さんと協力して適切に環境を調整したり、学習の際に配慮したりする取組みです。

小学校に入ると、1つの教室の中で、一斉授業を受けることとなります。その中で、みんなと一緒にペースが進められる子、理解をするのに少し時間がかかる子など、様々な子どもの実態が見えてきます。学習面だけでなく、集団行動面においても違いが現れたりします。これは、子どもたちの発達の様子が、それぞれ違うからです。大切なことは、一人ひとりの子どもの成長の様子をしっかりと受け止め、その子に合った教育を展開していくことです。

本校の支援体制として、通常学級では、学年に応じて習熟度に配慮した学習や、個別対応・授業外の時間の活用(放課後学習)などを行っています。それ以外でも子どもの状態に応じて通常学級内でできる合理的配慮も行います。さらに個別指導が必要な場合は、支援学級(ひまわり学級)や通級指導教室(color)で学習したり、特別支援教育支援員などが通常学級に入り込み、学習支援を行ったりするなどの体制をとっています。

学校では、子どもの日頃の様子で困っていることがあれば、その原因を一緒に考えていくことができます。また、様々な外部機関との連携も行っています。児童期における発達のつまずきや困り感に気づくことは、より早い段階で支援することで、その後の子どものよりよい成長に繋がっていきます。子どもについてご心配な点をお持ちでしたら、その場合は、遠慮なく担任の先生、特別支援教育コーディネーターや保健の先生などにご相談下さい。まず、学校内での教育相談として受けさせていただきます。

特別支援学級(ひまわり学級)

子どもに応じた自立活動(集団遊び)や学習指導を通して、持っている力を最大限に発揮できるように取組みを進めています。入級している子どもたちは、通常学級とは別に、もう一つの居場所ができることで、のびのびと学習ができたり、

認められたりする機会が増え、生き生きとした学校生活を送ることができています。

また、社会生活の中でみんなが、お互いに人として尊重し合い、共感し合える関係が形成されるために、理解教育にも力を入れています。互いを理解し、支え合う関係を育てるために、交流会などの活動を通して、「共に学び、共に生きる」ことの喜びと大切さを学び取っています。

本校では、このような取組みを学校全体で進めることで、お互いが支え合い、励まし合える集団づくりをめざしています。

CAP(3年生)

CAPとは、子どもの周りにある、いじめ、誘拐、暴力(痴漢など)、様々な暴力を子どもが受けそうになった時、あるいは受けた時に自分自身を守るために何ができるかを、ロールプレイ(模擬劇、寸劇)などを使って一緒に考える暴力防止プログラムです。3年生を対象に、7月5日6日にCAPプロジェクトやおの皆さんにこのプログラムをしていただきました。



七夕集会(ひまわり学級・2年生)

ひまわり学級と2年生が7月7日に七夕集会をしました。短冊を紹介したり王様じゃんけんをしたりして楽しみました。



着衣泳（5・6年生）

水難事故に遭ったときの対応として着衣泳をしました。あ（慌てない）か（考える）う（浮いて待つ）み（見渡す）練習をしました。夏休み、海や川など水場に行かれる機会も増えると思います。十分に気をつけて下さい。



朝顔（1年生）

生活科の学習で1年生は東門付近で朝顔の学習をしています。6月の初めには10センチぐらいだった朝顔も、1年生の子どもたちが毎日水やりをして、今では、1年生の背丈ほどになり可愛い花を見せてくれました。



毎日 水やりがんばっていました。



ぐんぐん成長して



可愛い花が咲きました。

委員会活動



体育倉庫の整理



かめっこホールの天井掃除



掲示物作成



放送原稿作成



スコップの泥落とし



本の整理



何をしてるのか見ていると、スリッパの置く場所にテープを張って来ていました。

